

平成30年6月7日

「神戸市都市空間向上計画 基本的な考え方（案）」市民意見募集結果の報告 および「神戸市都市空間向上計画 基本的な考え方 修正案」の公表に向けて

1. 趣旨

神戸市では、人口減少局面を迎え、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めるために「神戸市都市空間向上計画」策定に向け、「神戸市都市空間向上計画 基本的な考え方（案）」を公表いたしました。

これまで、市民・市会・有識者のみなさまから多くのご意見やご議論をいただいております。そこで、市民意見募集結果をご報告いたします。また、これらの意見を踏まえ「神戸市都市空間向上計画 基本的な考え方 修正案」の公表に向けて検討を進めておりますので、ご報告いたします。

2. 市民意見募集の結果

- (1) 意見募集期間：平成30年3月13日（火）～4月12日（木）
- (2) 意見件数：142通、409件

(3) 主な意見と神戸市の考え方（抜粋）

項目	意見の要旨	神戸市の考え方
計画の必要性	<p>・人口減少対策の1つとして、コンパクト化は有効だと思う。50年後も神戸が魅力的なまちであり続けるためにもこの計画の取り組みを進めてほしい。</p> <p>・計画には反対。必要性を説明してほしい。</p>	<p>神戸市では、2012年から人口減少が始まっており、「国立社会保障・人口問題研究所」の推計方法に準拠して算出した数値では、2015年から2060年にかけて約44万人減少すると推計しています。</p> <p>神戸市は、これまでも鉄道駅を中心に生活利便施設を配置し、その周辺に住宅地が広がる比較的コンパクトな都市構造を構成し、安全・安心・快適に住み続けられるまちづくりを進めてきました。</p> <p>人口減少局面を迎えた今、神戸市においても、都市全体の人口密度の低下や低未利用地の増加が生じ、都市の内部において空家空地などが数多くまばらに発生する「都市のスポンジ化」と呼ばれる現象が発生しており、その影響もあり、スーパーなどの生活利便施設が撤退している地域も出てきています。</p> <p>本計画は、将来を見据えてどのような方向で人口減少に対応した神戸のまちづくりを進めていくのかをお示しし、人口減少に対応する取り組みを進めるために策定していきます。</p> <p>本計画の1つの目的としては、都市機能を民間により維持・集積する「居住推奨区域」を設定し、一定の人口規模と密度を保つことで、生活サービスを提供するようなまちづくりを行っていくことです。</p> <p>もう1つの目的は、「ゆとりある居住区域」において、地域の特徴・特性を活かしたまちづくりを行っていくことです。</p> <p>ただし、防災上課題がある区域については、お住まいの方々に、より安全・安心に暮らしていただけるよう、早期移転に向けた取組みを進めていきたいと考えています。</p> <p>日本全体の人口が減少している中で、これまで通り人口増加を前提とした都市計画から転換し、将来にわたり神戸市が選ばれるまちであり続けるために、早い段階から取り掛かり、長い時間をかけて着実に取組みを進めていきたいと考えています。</p>

前提条件	推計人口の 110 万人を受け入れるのはおかしい。人口増対策を実施すべきではないか。	<p>「国立社会保障・人口問題研究所」の推計方法に準拠して算出した数値では、2015 年から 2060 年にかけて約 44 万人減少し、約 110 万人になると推計しています。</p> <p>市としては人口減少を甘受するのではなく、人口増に向けて取り組む積極戦略として、「神戸人口ビジョン」と「神戸創生戦略」、「神戸 2020 ビジョン」を策定し、自然増や社会増の取り組みを進めています。</p> <p>「神戸 2020 ビジョン」では、神戸が未来を担う若者に選ばれるとともに、市民の皆さんがいつまでも安心して豊かな暮らしを享受できるまちとなるよう、「若者に選ばれるまち」「誰もが活躍するまち」をテーマに掲げています。具体的には、若者に魅力的なしごとづくりや、文化・芸術・スポーツなど都市としての魅力を磨く取り組み、若い世代が結婚、出産の希望を神戸で実現し、安心して子育て、教育ができるための切れ目のない支援など人口減少を抑える取り組みを進めています。</p> <p>一方、人口減少が避けられない中でどのようにして人口減少に対応したまちづくりに取り組むかという調整戦略として、この計画を策定していく必要があると考えています。</p> <p>約 110 万人の都市を目指した計画ではありませんが、人口減少局面を迎えた中でも輝ける神戸であるように、調整戦略として「神戸市都市空間向上計画」を策定し、積極戦略と調整戦略を複眼的に進めていきます。</p>
	三宮一極集中ではなく、市全体でバランスのとれたまちづくりをしてほしい。	<p>「神戸市都市空間向上計画」は、三宮一極集中を促進するための計画ではなく、人口減少に対応するバランスのとれたまちづくりを進めるためのものです。</p> <p>都市機能誘導区域は、「都心」、「旧市街地型」、「郊外拠点型」の 3 種類の設定を考慮しており、三宮だけではなく、全市のバランスを考えながら、検討していく予定です。</p>
	居住権・財産権を奪う計画である。	<p>「神戸市都市空間向上計画」は、居住権・財産権を奪う計画ではありません。「ゆとりある居住区域」は、広い範囲を対象とした都市機能の集積を目的とする区域ではありませんが、引き続き居住していただくことができ、地域ごとに特徴・特性を活かした区域としています。</p>
区域設定	居住誘導区域外の地価の下落、区域内の地価の高騰を招く。	<p>国土交通省は、「立地適正化計画」の策定により、ただちに地価水準への大きな変動が生じるものではない、との見解を示しており、神戸市も国と同様の考えです。</p>
	居住誘導区域の過密により、学校や保育所、介護施設が不足するのではないか。	<p>居住誘導区域は、民間の提供するサービスを維持できるように人口規模や密度を保つ区域を設定するもので、過度な集約を進めるものではありません。学校・保育・介護などの都市機能の集積状況や今後の人口動向のバランスを見ながら関係各局が連携して取り組みを進めていきます。</p>

	<p>居住誘導区域外の公共サービスが低下するのではないか、住民を見捨てるのか。</p>	<p>「ゆとりある居住区域」は、都市機能の集積を目的とする区域ではありません。この都市機能は、ある程度広い範囲に対してサービスを行う施設、たとえば区役所や図書館などを想定しており、多くの人がアクセスしやすいよう、駅周辺に立地することが望ましいと考えています。</p> <p>一方、日常生活に必要な身近な機能である子育て支援の機能などは、駅周辺のみではなく「ゆとりある居住区域」にも必要だと考えています。</p> <p>この計画は、今お住まいの方の暮らしを守りつつ、次世代に持続可能なまちづくりを引継ぐために、今の段階から長い時間をかけて取組みを進めていくことを目的としています。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">区域設定</p>	<p>ゆとりある居住区域は、非可住地になるのか。住宅以外への用途に転換とはどういうことか。切り捨てないでほしい。</p>	<p>「ゆとりある居住区域」は、広い範囲を対象とした都市機能の集積を目的とする区域ではありませんが、引き続き居住していただくことができ、住民・行政・事業者が一緒になって地域の特徴・特性を活かしたくらしを考えていく区域としています。神戸市としては、国の方針に沿って「居住誘導区域」だけ示すのではなく、居住誘導区域外においても「ゆとりある居住区域」として今後のまちづくりの方針を示すことで市民のみなさまに安心してもらい、前向きにまちのあり方を考えてもらいたいという視点でお示ししています。</p> <p>神戸市には、鉄道駅が近くにないなど交通利便性が決して高くないエリアも多くありますが、インフラが整っており快適な暮らしができるエリアや、豊かな田園と共存しているエリア、観光に特化しているエリアなど、多様な特徴・特性をもったエリアが多くあります。</p> <p>このようなエリアの特徴を活かしたゆとりあるくらしが出来るようにするため、今後増えてくることが予想される空家空地などは、住宅としての活用を図りながら、場合によっては住宅以外の用途転換、たとえば緩やかに広場などに土地利用転換を図っていくことも考えられます。</p> <p>また、現状でも、神戸市内でスーパーなどの生活利便施設が撤退し、地域の皆様が不便に感じる事象が発生しています。民間の生活利便施設が提供できない地域に、どのようにして必要な生活サービスを確保するかといった課題も見込まれます。</p> <p>これまでも協働と参画によるまちづくりを進めてきましたが、今後も、これらの課題について、地域のみなさまと共にまちづくりのあり方について考え、話し合いながら進めていきたいと考えています。</p>

区域設定	<p>ニュータウンがゆとりある居住区域に含まれると考えられる。神戸市が開発してきたニュータウンの責任を果たさなければいけないのではないかと、ニュータウンの切り捨てではないか。</p>	<p>ニュータウンや海上都市の開発は、当時の人口増に対応した受け皿を作りつつ、都市の発展に資するという社会情勢や経済情勢に沿った的確な計画であったと考えています。</p> <p>ただし、建設から長期間が経った団地においては、人口減少や高齢化、施設の老朽化などのオールドタウン化の課題が顕在化してきています。そこで、平成 26 年度から、モデル団地において住宅、交通、商業、福祉などの多岐の分野にわたり、ハード施策からソフト施策、若い世代を呼び込む施策から高齢者の安全安心な暮らしの確保に関する様々な施策を住民とともに検討し、地域に応じた必要な施策を実施しているところです。</p> <p>今後もこれまで地域と共に取り組んできたオールドタウン対策を継続しながら、市民・事業者・行政が一緒になって地域の特徴・特性を活かしたくらしを長期的な視点で考えていきます。</p> <p>なお、神戸市都市空間向上計画における具体的な区域設定は検討中です。</p>
------	---	---

3. 今後の予定

市民・市会・有識者のみなさまから、

- ・誤解を与えないような分かりやすい資料を作成してほしい
- ・市民に対して丁寧に説明をしてほしい

などの意見を多くいただきました。

これらの意見を踏まえ、神戸市の基本的な考え方を丁寧に分かりやすくお伝えするために、区域名称や施策の方向性、スケジュールなどを見直した「基本的な考え方 修正案」を公表し、意見募集を実施する予定です。

平成 30 年 3 月～4 月

基本的な考え方
市民意見募集
(案)
(終了)



基本的な考え方
市民意見募集
修正案



計画素案
市民意見募集



計画案
市民意見募集



計画策定

平成 31 年度